講評：梅原　幸雄（東京芸術大学教授、日本美術院評議員）

みえ熊野の情景ースケッチコンテストーも５回（年）目となり、常連の出品者も多くなり、一つの型になりつつあるように思います。須賀利の風景を含め、より多くの人の心にとまってほしいことを望んでいます。

絵描きにとって素描（スケッチ）は、見えるものを写生しますが見えないものを心に入れるためのものです。みえ・熊野の山の空気、海の潮の香りを画中に織り込ませることが、大切です。今回の最優秀賞の石川勉さんの「海草を煮る二人」のはなやかな実感ある描写、優秀賞の金丸竹子さんの「サンマ干し」のリズムある表現。同じ優秀賞の高芝楓さんの「村嶋不動滝」の岩と水の表現のたくみさと、観察力のするどさ、審査員特別賞の小林芳郎さんの「大樹と熊野古道」、藤城郁哉さんの「須賀利の屋並」も、見えないものが表現されたよい作品です。その他で特に心引かれた作品に、上村真鈴さんの「のぞいてみたら」の独特な視点の斬新さと、絵を描く上で大切なよく見る目をもった作品でした。濵田修市さんの「レトロ」も、心引かれる作品でした。

講評：田島健次（一水会常任委員、三重県洋画協会・会長）

激震の２０１１年をふり返りつつ迎えた５回目のスケッチコンテスト。脱原発の風も吹いてくる熊野の海を背にして生活のぬくもりを味わいながら描いたであろう、皆さんの作品からは、技巧にまさる生き生きとした気韻が伝わります。そんな生動を感じながら選んだのが上位２点、石川さんの「海草を煮る二人」と金丸さんの「サンマ干し」でした。高芝さんの「村嶋不動滝」や上村さんの「のぞいてみたら」の作品はアート人の視点で捉えて、丁寧な描写力を評価。小林さんの「大樹と熊野古道」や藤城さんの「須賀利の屋並」も確かな腕で対象の魅力を引き出しています。入選作では蛭川さんの「千年の愉楽」に好感、今年に公開が予定されている映画の路地をけれん味のないタッチで表現。他に中川淳子、上地浩史、濵田修市、判治隆、澤田京美、西本彰、小林真由美さんらの作品が印象に残りました。この企画も回を重ねるうちに、スタイルに固定されない充実した作品が集まり、これからが楽しみです。

事務局から

今回で第５回目を迎えた「みえ熊野の情景　スケッチコンテスト」。55 点という多数の応募をいただき、誠にありがとうございました。

今回の審査は、1 月 20 日（金）に、名古屋市内に会場をお借りし、審査員の梅原先生、田島先生にお越しいただき、審査をしていただきました。

質の高い作品が多くあり、時間をかけて審査を行っていただきました。惜しくも選にもれましたが、先生方から励ましの言葉をいただいた作品もいくつかあります。この素晴らしい企画を更に広げていくべきとのお話しもいただきました。今年は優秀賞に高校生の作品が選ばれるなど、回数を重ねるごとに、より広い年齢層、エリアからレベルの高い作品の応募が増えていると実感しております。今後とも更に広く周知し、映画のロケ地に選ばれた須賀利を含め、この素晴らしい東紀州のロケーションを多くの方に知っていただくべくＰＲを行ってまいります。

最後になりましたが、出展者のみなさまをはじめ審査員の先生方には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

「みえ熊野の情景　スケッチコンテスト」事務局　東紀州観光まちづくり公社　東紀州地域観光圏協議会

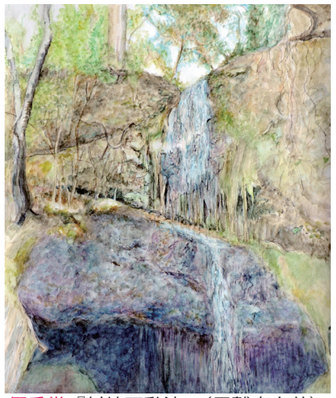
■紀北事務所
三重県尾鷲市坂場西町 1-1（三重県尾鷲庁舎内）
TEL.0597-23-3784　FAX.0597-23-378

■紀南事務所
三重県熊野市井戸町 371（三重県熊野庁舎内）
TEL.0597-89-6172　FAX.0597-89-6184

みえ熊野の情景　スケッチコンテスト

第５回 入賞作品集

最優秀賞『海草を煮る二人』（紀北町紀伊長島区 / 長島港周辺）
名張市　石川　勉
“若い夫婦が海草を煮ている。ここにも世代交代か。おしゃれで、なんとなく殺風景な漁港の片すみに花が咲いている”



優秀賞『村嶋不動滝』（尾鷲市向井）
尾鷲高校２年　高芝　楓
“昔からある滝を見て感動し、もっと多くの人に感動を共有してもらいたいと思いました。”

優秀賞『サンマ干し』（熊野市）
鈴鹿市　金丸　竹子
“青々とした七里御浜の海岸に多く干され銀色に光っているサンマを見て感動した。”

※2011 年 10 月３日～ 201２年 1 月１３日ご応募の入賞作品集。各賞・題名・スケッチ場所・住所・氏名順に記載。掲載順序は各賞の順位には関係なしです。敬称略。